

あの日を語り継ぐ ～校長講話「みやぎ鎮魂の日」に寄せて～

あの日「3.11東日本大震災」から今年で15周年を迎えます。当時を経験した生徒はわずかしきいません。しかも生まれて間もなく、当時の記憶はありません。

卒業式を翌日に控えた3月5日（木）、本校校長より「みやぎ鎮魂の日」に寄せて全校生徒を前に講話を行いました。

発災当時のラジオ音声と市内各所の様子・津波襲来の動画の視聴後、約2000人の地域住民が避難してきた本校の状況と被害について画像を交えて伝え、この震災の被害がいかに甚大だったかを共有しました。

この後、講談社刊「PRAY FOR JAPAN -3.11世界中が祈りはじめた日-」を紹介。この書籍は震災当夜、20歳の大学生によって立ち上げられたWebサイトに寄せられたメッセージを綴ったもので、困難な状況でも分かち譲り合って・助け合う姿、大人になったら街の復興を担うことを誓う子どもたちの姿などが記されており、日本人の持つすばらしさについてお話ししました。

最後に、「鎮魂の日」を迎えるにあたり「命の大切さ・助け合うこと力・日常は当たり前でないこと」を改めて認識しようと結びました。



講話の前に全校で黙とう



当時の概要を伝える校長



動画の始まり



発災当時の様子を伝える
スクリーン画像